

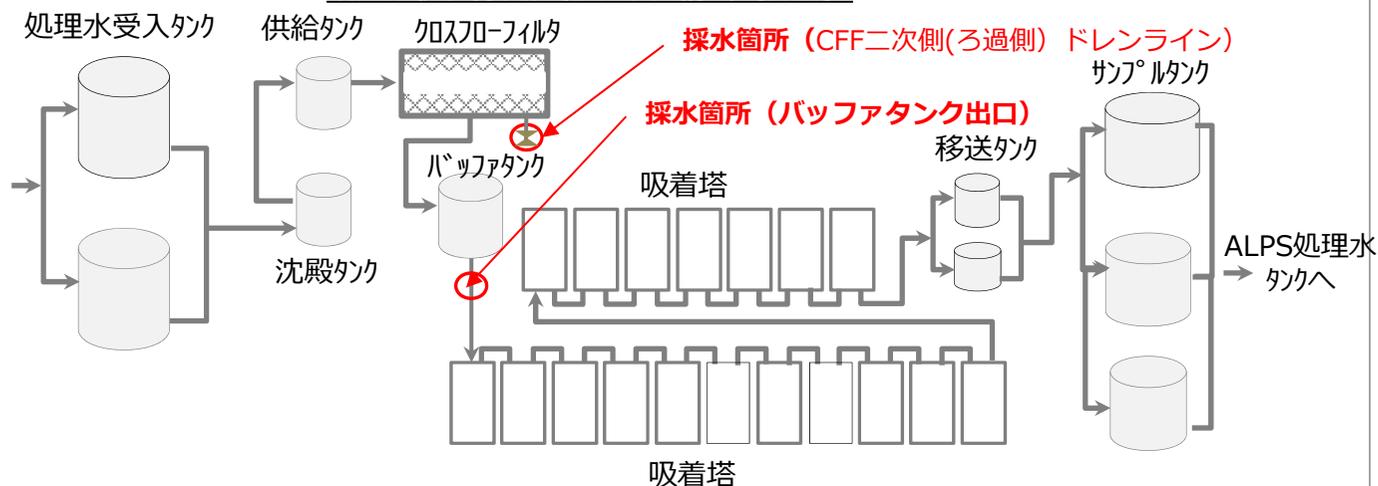
# 福島第一原子力発電所

## 増設多核種除去設備(B)クロスフローフィルタのろ過水の白濁について

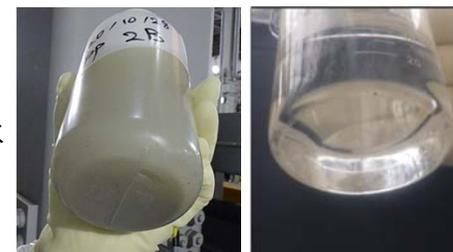
< 参 考 資 料 >  
2020年11月4日  
東京電力ホールディングス株式会社  
福島第一廃炉推進カンパニー

- 多核種除去設備（以下、「ALPS」）の運用にあたっては、2013年度に既設ALPSで発生したクロスフローフィルタ（以下、「CFF」）の不具合による炭酸塩沈殿処理スラリーの設備出口への透過事象を踏まえ、再発防止対策としてバッファタンク出口の水を採取し、透過の兆候を確認している。（1回/1日）
- 10月27日、点検を行っていた増設ALPS（B）の運転再開にあわせ、バッファタンク出口の水を採取したところ若干の白濁を確認、さらにCFFドレンラインにおいて濃い白濁を確認したことから増設ALPS（B）を停止した。今後、白濁の原因を調査していく。
- なお、バッファタンク出口から採取した水のカルシウム濃度は4[ppm]であり、通常運転時の濃度範囲内のため、ALPS出口処理水への核種除去性能への影響はないものと考えている。また、10月27日の起動時間は短時間であったため、処理した水は系統内もしくはサンプルタンクまでの間に留まっており、念のためサンプルタンクにおいて放射能濃度の分析結果に異常がないことを確認したうえで、ALPS処理水タンクへ移送する。
- また、現在、日々の処理は他系統を用いて実施している。

### 増設多核種除去設備の系統構成（概略）



### 白濁の様子



白濁あり  
増設ALPS(B)

【参考】白濁なし  
既設ALPS(A)